

文化心理学における重要な問題の1つは、心の性質のどこまでが文化特異的で、どこまでが文化普遍的かという点である。この点を探る1つのアプローチは、たとえ異なった文化の人々であろうと、認知を介さない、いわば「原始的」な処理に関しては、同様のパターンを示すのかどうかを明らかにすることである。そのような原始的な処理の代表例が、単純接触効果である。本論では、聴覚刺激および視覚刺激のいずれの場合においても、日米で同様に単純接触効果が生じるのかどうかを検討した研究について紹介し、単純接触効果が文化普遍的であることのインプリケーションを述べる。